

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和7年8月29日時点

	開催日時	開催形式（場所）	名称
1	9月4日(木) 15:30～17:30	ハイブリッド (北海道科学大学)	公開シンポジウム「情報教育の現状と未来～情報教育課程の設計指針の改訂について～」
2	9月5日(金) 17:40～19:10	北九州国際会議場	公開シンポジウム「マテリアルとライフの融合サイエンス」
3	9月6日(土) 13:30～16:40	キャンパスプラザ京都	共同主催国際会議市民公開講座「炭素と金属で拓く未来社会」
4	9月6日(土) 13:00～15:30	朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター	公開シンポジウム ぼうさいこくたい2025 in 新潟「能登半島の経験に学ぶ～地震・液状化・大雨・大雪に対する自助・共助・公助～」
5	9月7日(日) 10:30～12:00	オンライン開催	公開シンポジウム・第20回防災学術連携シンポジウム「複合災害に立ち向かう防災の知恵—新潟と能登の経験から」
6	9月7日(日) 13:40～15:20	東北学院大学	公開シンポジウム「高校心理学教育と心理学（者）との効果的なつながりを育むために教室での心理学シリーズ1」
7	9月8日(月) 13:30～17:00	ハイブリッド (名城大学)	公開シンポジウム「才能が芽吹く大学入試へ：日本の科学技術と大学教育のこれから」
8	9月13日(土) 10:00～17:25 9月14日(日) 9:30～13:00	オンライン開催	公開シンポジウム「フューチャー・デザイン2025」
9	9月13日(土) 13:00～17:00	オンライン開催	学術フォーラム「多層多軸連関で捉えて対策する心血管・腎・代謝症候群」
10	9月13日(土) 13:00～17:00	ハイブリッド (京都大学)	近畿地区会議学術講演会「社会の持続可能性と水問題」
11	9月14日(日) 13:10～16:20	ハイブリッド (岐阜大学)	公開シンポジウム「持続可能な畜産を目指して～温暖化を防止する技術の最前線～」
12	9月16日(火) 13:00～15:45	ハイブリッド (愛媛大学)	公開シンポジウム「Speaking Plant Approach 2.0～農業生産現場実装と学術の次なる挑戦～」
13	9月16日(火) 14:00～17:30	ハイブリッド (朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター)	公開シンポジウム「地域の特色を生かした大学の取組×学術とスタートアップの両輪での推進に向けて」
14	9月21日(日) 9:00～12:00	弘前大学	公開シンポジウム「地球的課題解決のための資質・能力を育成する地理教育—小学校・中学校・高等学校までの一貫カリキュラムに向けて—」
15	9月27日(土) 13:00～16:00	青山学院大学	公開シンポジウム「戦後80年の国境横断ガバナンスの形成と変容—開放と閉鎖の相克—」
16	9月28日(日) 13:00～15:30	オンライン開催	公開シンポジウム「人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材：第2回」

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。

## 公開シンポジウム「情報教育の現状と未来～情報教育課程の設計指針の改訂について～」の 開催のご案内

日本学術会議情報学委員会情報学教育分科会は、情報処理学会と連携して、2018年に「情報学の参照基準」、2020年に「情報教育課程の設計指針—初等教育から高等教育まで」を公表し、情報科目の教育の方針を示しました。その後の情報分野の急速な進化をふまえ、情報学教育分科会では情報教育課程の設計指針の改訂に向けた検討を行っているところです。

我が国の学術及び産業の推進に重要な案件であり、日本学術会議情報学教育分科会、情報処理学会、電子情報通信学会が主催し、大学及び高校の教員組織や情報関連する学協会と連携して公開シンポジウムを開催し、議論を行います。

主 催：日本学術会議情報学委員会情報学教育分科会

共 催：一般社団法人情報処理学会、一般社団法人電子情報通信学会

後 援：全国高等学校情報教育研究会、情報学科・専攻協議会（予定）、  
その他情報学関連学会に後援申請予定

日 時：令和7年9月4日（木）15：30～17：30

場 所：北海道科学大学（006-8585 札幌市手稲区前田7条15丁目4-1）、  
および、Zoomによるオンライン

申込み：FIT2025のサイト（<https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2025/>）にて受付予定

プログラム：

全体司会

高岡 詠子（日本学術会議連携会員、上智大学理工学部教授）

15:30 開会挨拶

下條 真司（日本学術会議第三部会員、青森大学ソフトウェア情報学部教授）

15:40 「情報科を取り巻く現状と学習指導要領改訂に向けて」

須藤 祥代（国立教育政策研究所／文部科学省 教育課程調査官）

16:00 「設計指針から参照基準へ」

萩谷 昌己（東京大学名誉教授、情報処理学会会長）

16:20 （ 休憩 ）

16:30 総合討論

司 会

中山 泰一（日本学術会議連携会員、電気通信大学大学院情報理工学研究科教授）

討論者

久野 靖（日本学術会議特任連携会員、電気通信大学特命教授）

大場 みち子（日本学術会議第三部会員、京都橘大学工学部教授）

須藤 祥代（国立教育政策研究所／文部科学省 教育課程調査官）

井手 広康（愛知県立旭丘高等学校教諭）

17:20 閉会挨拶

徳山 豪（日本学術会議連携会員、東北大学名誉教授）

17:30 閉会



## イベント企画

### 情報教育の現状と未来～情報教育課程の設計指針の改訂について～

2025/9/4(木) 15:30-17:30

第2イベント会場

**【企画概要】** 日本学術会議情報学委員会情報学教育分科会は、情報処理学会と連携して、2018年に「情報学の参照基準」、2020年に「情報教育課程の設計指針—初等教育から高等教育まで」を公表し、情報科目の教育の方針を示しました。その後の情報分野の急速な進化をふまえ、情報学教育分科会では情報教育課程の設計指針の改訂に向けた検討を行っているところです。我が国の学術及び産業の推進に重要な案件であり、日本学術会議情報学教育分科会、情報処理学会、電子情報通信学会が主催し、大学及び高校の教員組織や情報関連する学協会と連携して公開シンポジウムを開催し、議論を行います。

#### 司会

高岡 詠子（上智大学理工学部 教授）



**【略歴】** 東京都に生まれる。慶應義塾大学理工学部数理科学科卒業，同大学大学院理工学研究科計算機科学専攻博士課程修了，博士（工学）。現在，上智大学理工学部教授。放送大学客員教授。日本学術会議連携委員，本会フェロー。情報教育、医療情報学、自然言語処理の研究に従事。主な著書：チューリングの計算理論入門，シャノンの情報理論入門（講談社ブルーバックス），初歩からの情報科学('25)，計算の科学と手引き（'19），計算事始め('13)および情報科学の基礎('07)（放送大学教科書）。

#### 15:30-15:40 開会挨拶

下條 真司（青森大学 ソフトウェア情報学部 教授）



**【略歴】** 1986年に大阪大学大学院基礎工学研究科で工学博士の学位を取得。大阪大学で助手、講師、助教授、教授、サイバーメディアセンター長を歴任。2023年4月より青森大学に着任。専門は情報通信、情報ネットワーク、インターネット・クラウド。

## 15:40-16:00 講演(1) 情報科を取り巻く現状と学習指導要領改訂に向けて

須藤 祥代 (国立教育政策研究所 | 文部科学省 教育課程研究センター研究開発部 | 初等中等教育局 学校情報基盤・教材課/教育課程課 情報教育振興室、参事官(高等学校担当)付 産業教育振興室 教育課程調査官 | 教科調査官)

**【概要】** 生成AIをはじめとするデジタル技術の急速な進展を受け、学習指導要領の改訂に向けた議論が進められており、その方向性への関心が高まっている。中でも、小・中・高等学校における情報活用能力の抜本的な充実や、系統的教育課程の構築、情報科の在り方は、大きな注目を集めている。こうした社会的背景のもと、本講演では、これまでに示された関連資料や文部科学省の現状の取り組みを紹介しつつ、現行の指導要領のもとでも取り組むべき授業改善の視点を考察する。特に、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、今すぐにでも実践できるものとして、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の必要性とその実践について情報を提供し、情報科の今後の充実に向けたヒントを探る。



**【略歴】** 国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官、文部科学省 初等中等教育局 学校情報基盤・教材課/教育課程課 情報教育振興室 教科調査官/参事官(高等学校担当)付 産業教育振興室 教科調査官。情報科初年度である2003年に東京都で教員として勤務を開始し、都立高校や中等教育学校を経て現職。NHK 高校講座「情報 I」監修・講師、経済産業省「未来の教室」STEAM Library制作アドバイザー等を経験。生成AIや教育DX、探究・キャリア教育に関する実践事例提供も多数。

## 16:00-16:20 講演(2) 設計指針から参照基準へ

萩谷 昌己 (東京大学名誉教授、情報処理学会会長)

**【概要】** 2016年3月23日に公表された「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 — 情報学分野」(以下、参照基準)は、情報学という学術分野を定義するとともに、その学部レベルの専門教育を特徴づけている。その中で、特に情報学をメタサイエンス(他の多くの学術分野の基盤となる分野)と捉え、それが故に、専門教育と接続する初中等教育および他分野における専門基礎教育の中で、情報学を教えること、すなわち情報教育の必要性和重要性について説いている。情報教育課程の設計指針はその考えに沿って策定されたもので、情報教育の親学問として情報学を想定していることは言うまでもない。どの分野においても、研究と教育は車の両輪のように発展する。教育の進展に影響されて研究の分野が形作られることも自然である。本講演では、参照基準の策定の中心にいた講演者が、この度の設計指針の改訂に沿って参照基準を改訂する可能性について検討する。



**【略歴】** 1988年 京都大学理学博士。2001～2022年 東京大学大学院情報理工学系研究科教授。2021年～ 東京大学 Beyond AI 研究推進機構長。2022年～ 東京大学名誉教授。2011～2017年 日本学術会議会員。2020～2022年 情報処理学会副会長。2025年6月～ 情報処理学会会長。

## 司会

## 中山 泰一（電気通信大学大学院情報理工学研究所 教授）

**【討論概要】** 日本学術会議は、2018年に「情報学の参照基準」、2020年に「情報教育課程の設計指針—初等教育から高等教育まで」を公表しました。情報教育課程の設計指針は、情報学の参照基準で示された理念を具体化し、小学校から高等学校、大学までの情報教育を体系化し、各教育段階で情報学のうちから何を学ぶことが望まれるかを「情報教育の共通のものさし」として一貫した形で整理したものです。情報教育課程の設計指針は、いちど策定すれば終わりというものでなく、一定の期間の経過による改訂が必要です。日本学術会議情報学委員会情報学教育分科会では、2026年頃の公表を目指して、情報教育課程の設計指針の改訂に向けた手続きを進めています。最初に、パネリストの方々にそれぞれの立場から情報教育課程の設計指針についてご意見をお話いただいた上で、フロアとの質疑応答を交えて議論を進めます。



**【略歴】** 1988年東京大学工学部計数工学科卒業。1993年東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程修了。博士（工学）。同年より電気通信大学において、計算機システム、並列分散処理、情報教育の研究に従事。本会において、論文誌ジャーナル編集委員会編集長、教育担当理事、事業担当理事などを歴任。2014年度学会活動貢献賞、2016年度山下記念研究賞、2017年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞受賞。日本学術会議連携会員。本会フェロー。

## パネリスト

## 久野 靖（電気通信大学 特命教授）



**【略歴】** 1984 東京工業大学理工学研究科単位取得退学。理学博士。東京工業大学助手、筑波大学教授、電気通信大学教授を経て、2022年から同大学特命教授。筑波大学名誉教授。情報処理学会 情報処理教育委員会、初等中等教育委員会、情報入試委員会、情報科教員・研修委員会各委員。日本学術会議 情報学委員会 情報学教育分科会 連携会員。プログラミング言語、ユーザインタフェース、情報教育に興味を持つ。

## パネリスト

## 大場 みち子（京都橘大学工学部 情報工学科 教授）



**【略歴】** 982年(株)日立製作所入社。知識工学応用研究、ミドルウェア開発に従事。2010年-2022年公立はこだて未来大学 教授。2023年より現職。知的行動の記録と分析などの研究に従事。2001年大阪大学大学院博士後期課程修了。博士（工学）。日本学術会議会員。本会フェロー、理事（総務担当2009年度-2010年度、事業担当2015年度-2016年度、長期戦略担当2022年度-）、デジタル・ドキュメント研究会主査などを歴任。

## パネリスト

須藤 祥代（国立教育政策研究所／文部科学省 教育課程調査官）



【略歴】 国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官、文部科学省 初等中等教育局 学校情報基盤・教材課／教育課程課 情報教育振興室 教科調査官／参事官(高等学校担当)付 産業教育振興室 教科調査官。情報科初年度である2003年に東京都で教員として勤務を開始し、都立高校や中等教育学校を経て現職。NHK 高校講座「情報 I」監修・講師、経済産業省「未来の教室」STEAM Library制作アドバイザー等を経験。生成AIや教育DX、探究・キャリア教育に関する実践事例提供も多数。

## パネリスト

井手 広康（愛知県立旭丘高等学校 教諭）



【略歴】 愛知県立旭丘高等学校教諭。愛知県立大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了，博士（情報科学）。プログラミングやデータサイエンスの教育に関する研究に従事。高等学校情報科の教科書や問題集，全国模試などの執筆にも携わる。情報処理学会初等中等教育委員会副委員長，同会情報科教員・研修委員会副委員長，日本産業技術教育学会理事，日本情報科教育学会理事などを務める。FIT論文賞（2017），山下記念研究賞（2022），学会活動貢献賞（2024）など受賞。

## 17:20-17:30 閉会挨拶

徳山 豪（東北大学 名誉教授）



【略歴】 東京大学理学研究科数学専攻博士課程修了、理学博士。日本IBM東京基礎研究所、東北大学教授、関西学院大学教授を経て、現在東北大学名誉教授、関西学院大学フェロー。専門は、理論計算機科学。情報処理学会、電子情報通信学会フェロー。日本学術会議 情報学教育分科会 副委員長 として、情報教育の設計に携わる。

参加する >

[情報処理学会に入会する](#) | [電子情報通信学会に入会する](#) |

All Rights Reserved. Copyright (C) 2025 by The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers and Information Processing Society of Japan

参加費無料・事前申込不要

2025 9/5 FRI.

17:40-19:10

北九州国際会議場  
メインホール

# 第67回 歯科基礎医学学会学術大会 日本学術会議シンポジウム

市民公開講座（どなたでも参加いただけます）

## マテリアルとライフの 融合サイエンス

歯科医療には、歯周組織の再建・再生のために多くのマテリアルが使用される。これらのマテリアルはマテリアルサイエンスのみならず、ライフサイエンスに基づき研究開発する必要がある。マテリアルの性能を支配する生体適合性や生体機能性は、マテリアル自体の表面と生体組織との物理化学・生化学反応によって支配される。本シンポジウムでは、これら一連の学術研究を「マテリアルとライフの融合サイエンス」と定義し、ライフサイエンスを歯科医療におけるマテリアル・医療機器の研究開発に役立てる方策について討論し、今後の学術研究戦略を展望する。

### 1. オープニングリマークス

樋田 京子

日本学術会議第二部会員／基礎系歯学分科会委員長／病態系歯学分科会委員／北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野血管生物分子病理学教室教授／歯科基礎医学学会研究委員会委員

### 2. オーバービュー

埴 隆夫

日本学術会議第三部会員／基礎系歯学分科会委員／大阪大学大学院工学研究科特任教授／神戸大学大学院医学研究科客員教授

### 3. 骨代謝に倣った新規生体材料開発

松本 卓也

日本学術会議連携会員／基礎系歯学分科会委員／岡山大学学術研究院医歯薬学域教授／歯科基礎医学学会会員

### 4. 骨質再建のための材料表面/生物相界面反応理解とその人為的制御

松垣 あいら

大阪大学大学院工学研究科准教授

### 5. バイオミネラリゼーションに基づく歯質・歯周組織再生材料の構築

大矢根 綾子

日本学術会議連携会員／国立研究開発法人産業技術総合研究所材料基盤研究部門総括研究主幹

### 6. クロージングリマークス

石丸 直澄

日本学術会議連携会員／基礎系歯学分科会副委員長／病態系歯学分科会委員／東京科学大学大学院医歯学総合研究科口腔病理学分野教授／一般社団法人歯科基礎医学学会編集委員会委員

座長・オーガナイザー：

埴 隆夫

日本学術会議第三部会員／基礎系歯学分科会委員／大阪大学大学院工学研究科特任教授／神戸大学大学院医学研究科客員教授

松本 卓也

日本学術会議連携会員／基礎系歯学分科会委員／岡山大学学術研究院医歯薬学域教授／歯科基礎医学学会会員

主催 日本学術会議 歯学委員会基礎系歯学分科会、病態系歯学分科会、  
一般社団法人 歯科基礎医学学会

後援 日本生命科学アカデミー

連絡先：樋田京子 khida@den.hokudai.ac.jp

# 市民公開講座

参加  
無料

## 炭素と金属で拓く未来社会

### 開催概要

2025年 9/6 (土)

13:30 – 16:40 (受付 13:15 –)

キャンパスプラザ京都

第3講義室

京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939

本講座は、第22回有機合成指向有機金属化学国際会議 (OMCOS-22) の市民公開講座として開催されます。有機金属化学は、炭素と金属の結合を含む化合物を扱う学問分野であり、医農薬や機能性有機材料の製造から環境・エネルギー・資源・食料などの社会的課題の解決まで、現代社会の様々な場面で重要な役割を果たしています。本講座では、化学の最前線で活躍する3名の先生方が、その魅力と可能性を専門知識がなくても理解できるよう丁寧に解説します。化学に興味のある方や学生の皆さん、化学の魅力を感じたいすべての方々のご参加をお待ちしております。

### – 申込方法 –

### プログラム

右のQRコードより事前申込をお願いします→



13:30 – 13:40 開会式

13:40 – 14:30 **大木靖弘 先生** 京都大学 化学研究所

「有機金属化学」で何ができる？自然に学ぶケーススタディ

14:40 – 15:30 **阿部竜 先生** 京都大学 大学院工学研究科

人工光合成で未来のクリーン水素社会を拓く

15:40 – 16:30 **北川進 先生** 京都大学 物質-細胞統合システム拠点 (iCeMS)

空にして満つ – 動くナノ空間を宿す結晶が語る 『無用の用』

16:30 – 16:40 閉会式

主催: 第22回有機合成指向有機金属化学国際会議 組織委員会, 日本学術会議

お問い合わせ先: OMCOS-22事務局

075-7538985

omcos22@org.kuchem.kyoto-u.ac.jp



## 能登半島の経験に学ぶ

### ～地震・液状化・大雨・大雪に対する自助・共助・公助～

■日時：2025年9月6日（土）10：30～12：00

■場所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 2階 中会議室 201B  
※ハイブリッド開催（現地会場 定員 100名+オンライン Zoom 配信 定員 500名）

■主催：日本学術会議 土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会、防災減災連携研究ハブ（JHoP）

■協力：防災科学技術研究所

■開催趣旨：東日本大震災、能登半島地震では、人口減少や高齢化が進む地域での「災害時の課題」が明らかになりました。災害に強い地域を築くために、目指すべき災害の備えについて「自助・共助・公助」の主体と連携し議論します。

#### ■プログラム

10:30 趣旨説明

小野 裕一（日本学術会議連携会員、東北大学災害科学国際研究所 教授）

10:40 【基調講演：能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え】

竹内 徹（日本学術会議第三部会員、防災減災学術連携委員長、東京科学大学名誉教授）

【報告：活動・事例】

10:55 「能登半島地震に学ぶ液状化リスクと対策」

三村 衛（京都大学名誉教授、一般財団法人 GRI 財団 理事長）

11:05 「その対策、本当に実現できる？ - 人口減少や地域の実情に向き合うこと -」

小山 真紀（岐阜大学 環境社会共生体研究センター 准教授）

11:15 「近年の降積雪の変化と想定される複合災害 - 令和 6 年能登半島地震への対応を例に -」

中村 一樹（防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター センター長）

11:25 【総合討論】

＜モデレーター＞

大原 美保（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環 教授）

＜パネリスト＞

竹内 徹（日本学術会議第三部会員、防災減災学術連携委員長、東京科学大学名誉教授）

三村 衛（京都大学名誉教授、一般財団法人 GRI 財団 理事長）

小山 真紀（岐阜大学 環境社会共生体研究センター 准教授）

中村 一樹（防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター センター長）

11:55 閉会挨拶

松浦 象平（日本学術会議 IRDR 活動推進小委員会委員、防災科学技術研究所 企画部次長）

■Zoom 接続先：事前申し込みは不要です。現地参加の定員は 100 名、オンライン参加の定員は 500 名です。  
ぼうさいこくたいホームページのプログラムのページ（<https://bosai-kokutai.jp/2025/S-32/>）  
に Zoom 配信用 URL を掲載いたします。

■お問合せ：防災減災連携研究ハブ事務局（国立研究開発法人防災科学技術研究所）

info-jhop@bosai.go.jp

# 複合災害に立ち向かう防災の知恵 —新潟と能登の経験から

日時：令和7年（2025年）9月7日（日）10:30～12:00  
場所：Zoom ウェビナーによるオンライン開催

主催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会、一般社団法人 防災学術連携体

開催趣旨：新潟県およびその周辺地域で過去に発生した地震、豪雪、豪雨などの災害を振り返るとともに、2024年に発生した能登半島地震の教訓を共有します。これらの災害が複合的に発生するリスクを踏まえ、防災に関する最新の知見や情報を、関連する学術分野の専門家が発信します。そして、正しい自助・共助の行動へとつなげていくことを目的とします。本セッションでは、関連する分野の専門家をパネリストに迎え、一般の方にも分かりやすく防災につながるお話しをいただく予定です。

参加費：無料

定員：1000名（ZOOM Webinar）

申込方法：次のフォームからお申し込みください。

<https://ws.formzu.net/fgen/S2178437/>

※当日の発表資料は、防災学術連携体のホームページに掲載いたします

<https://janet-dr.com/>



## プログラム：

司会：山本佳世子（日本学術会議連携会員、電気通信大学教授）  
永野正行（日本学術会議連携会員、東京理科大学教授）

10:30 開会挨拶：竹内 徹  
（日本学術会議防災減災学術連携委員会委員長、東京科学大学名誉教授）

10:32 趣旨説明：渦岡良介（防災学術連携体代表幹事、地盤工学会会長、京都大学教授）

10:34 複合災害の考え方とやるべき事：  
北田奈緒子（日本応用地質学会副会長、GRI 財団理事）

10:49 災害現象を知り、いまできる備えを考える：溝口敦子（名城大学教授）

11:04 地震後の生活ライフラインを守る：鎌田泰子（神戸大学教授）

11:19 住宅地における液状化被害の実態と対応：安田 進（東京電機大学名誉教授）

11:34 能登半島地震における復興アクション：  
木村一幸（国土交通省北陸地方整備局企画部事業調整官）

11:49 質疑応答

11:57 閉会挨拶：米田 雅子  
（防災学術連携体代表幹事、防災推進国民会議議員、宇都宮大学理事）

公開シンポジウム

# 高校心理学教育と心理学(者)との 効果的なつながりを育むために 教室での心理学シリーズ1

令和7年9月7日(日) 13:40 - 15:20

東北学院大学五橋キャンパス 第1会場(押川記念ホール)

〒984-8588 宮城県仙台市若林区清水小路 3 - 1

(日本心理学会第89回大会内)

開催趣旨：本公開シンポジウムは、心理学者が高校心理学教育の実情を知り、効果的に連携していくことを目指すと同時に、高校の先生方が心理学の授業実践についての実際問題について述べ、心理学者が教室のなかで出来る心理学について紹介する機会とします。具体的な事例は高校心理学教育の実情を知る有効な手がかりとなると考えられます。そのため、「心理学の授業の導入」および「感情についての授業実践例」を取り上げます。なお、公益社団法人日本心理学会において2018年に発足した高校心理学教育小委員会の活動内容に深く関連するため、日本心理学会大会との同時開催としています。

対象：どなたでも参加いただけます

参加費無料・事前申込不要

※第89回大会の他の行事に参加する場合は、参加費必須

定員：1,000人

問い合わせ：公益社団法人日本心理学会 [jpa@psych.or.jp](mailto:jpa@psych.or.jp)

主催：日本学術会議心理学・教育学委員会心の科学のキャリアパス構築分科会

企画：公益社団法人日本心理学会教育研究委員会高校心理学教育小委員会

## 公開シンポジウム

高校心理学教育と心理学(者)との効果的なつながりを育むために  
教室での心理学シリーズ1

### プログラム

司会：北川 恵(甲南大学教授)

1. 挨拶・高等学校の心理学教育と日本学術会議について

楠見 孝(日本学術会議連携会員／京都大学国際高等教育院副  
教育院長・特定教授)

2. 教科書(高校倫理)のなかで心理学がどのように扱われているか

鈴木 雅之(横浜国立大学准教授)

3. 高校での公民科「倫理」の授業で心理学をどのように扱っているか

杉浦 光紀(東京都立新宿山吹高等学校・教諭)

4. 教室のなかで出来る心理学についての実践例や工夫

(1)心理学への導入

佐藤 誠子(東北大学准教授)

(2)感情に関する実践授業の例

野崎 優樹(甲南大学准教授)

### 指定討論

1. これからの高校と大学とのつながり方(高校心理協について)

池田 まさみ(十文字学園女子大学教授)

2. 日本学術会議「心の科学のキャリアパス構築」の視点から

河原 純一郎(日本学術会議第一部会員／北海道大学大学院文  
学研究科教授)

# 才能が芽吹く大学入試へ： 日本の科学技術と大学教育のこれから

2025年

9月8日(月) 13:30 ~ 17:00

名城大学 天白キャンパス  
(愛知県名古屋市) ※ハイブリッド開催

参加費無料:申し込みサイト ▶ <https://pro.form-mailer.jp/fms/66958ca2336166>  
9月3日事前申し込み〆切



主催：日本学術会議 総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会  
応用物理学会

急速に変化する社会において、次世代のイノベーションを牽引する多様な人材の育成は最重要課題の一つであり、近年大学では、入試制度や高等教育の在り方を見直す多様な改革が進められています。本シンポジウムでは、大学入試・教育制度改革の先端を担ってきた大学学長経験者を講師としてお迎えし、それぞれの改革に込めたビジョンと実現への道のり、残された課題について、関係省庁の関係者、応用物理学会会長との多角的な対話を通じて掘り下げていきます。本シンポジウムは、日本の教育制度の可能性をさらに広げ、未来のイノベーションを支える人材育成の新たな地平を切り拓く場とすることを目指します。

## 開会挨拶

13:30 木本 恒暢\* (京大院工) 応用物理学会会長・  
日本学術会議連携会員

## 趣旨説明

13:35 玉田 薫\* (九大先導研) 日本学術会議第三部会員・  
総合工学委員会委員長  
未来社会と応用物理分科会幹事

## 第一部 招待講演

### 「大学入試制度と次世代イノベーション人材」

13:45 「今後の科学技術人材政策の方向性」  
奥 篤史 (文科省)  
文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課長

14:00 「VUCA時代の応用物理学会」  
波多野睦子\* (Science Tokyo)  
内閣府総合科学技術・イノベーション会議議員・  
本学術会議連携会員

14:15 「次世代イノベーション人材育成に向けた名古屋大学の取組」  
杉山 直 (名古屋大)  
名古屋大学総長・日本学術会議第三部会員

14:30 「多様な才能が開花する入試と教育に向けて」  
大野 英男\* (東北大)  
東北大学前総長・日本学術会議連携会員

14:45 「多様性が産む研究と教育の進化: 東工大の挑戦と展望」  
益 一哉\* (産総研)  
東京工業大学元学長・日本学術会議連携会員

15:00 休憩 (15分間)

## 第二部 15:15-16:55 総合討論

### 「才能が芽吹く大学入試へ： 日本の科学技術と教育のこれから」

#### モデレーター

関谷 毅\* (阪大産研) 日本学術会議第三部会員・  
未来社会と応用物理分科会委員長

#### パネリスト

木本 恒暢\* (京大院工)  
奥 篤史 (文科省)  
波多野 睦子\* (Science Tokyo)  
杉山 直 (名古屋大)  
大野 英男\* (東北大)  
益 一哉\* (産総研) (敬称略)  
玉田 薫\* (九大先導研) (\*応用物理学会員)

#### 閉会挨拶

16:55 安達千波矢\* (九大工) 応用物理学会副会長

#### 総合司会

田和 圭子\* (関西学院大) 日本学術会議連携会員・  
未来社会と応用物理分科会副委員長  
吉田 郵司\* (産総研) 日本学術会議連携会員・  
未来社会と応用物理分科会幹事

問い合わせ先：関西学院大学 教授 田和 圭子  
E-mail: ktawa\*kwansei.ac.jp (\*を@に変更)

# 第8回



# FUTURE DESIGN 2025

9/13 (Sat) 10:00 ~

9/14 (Sun) 9:30 ~

参加無料  
Zoom開催

基調講演 9月13日 (土) 16:20~

「未来のために今日行動するーウェールズ発・  
《未来世代のためのウェルビーイング法》が  
できるまで」 同時通訳あり

ウェールズ・トリニティ・セント・デイビット大学名誉副学長  
ジェーン・デイヴィッドソン氏



略歴：ジェーン・デイヴィッドソン氏は「ウェールズ・ネットゼロ2035」委員長を務め、2035年のネットゼロ達成に向け助言しています。著書『#futuregen』は将来世代保護の取り組みを紹介し、日本語版は2025年9月上旬刊行予定。2000~2011年にウェールズ政府の環境・教育大臣として、持続可能性を政府の基本原則とする法律の制定を提案し、2015年の「将来世代の福祉に関するウェールズ法」につながりました。現在は環境団体を支援し、世代間公平性を国際的に発信しています。

基調講演 9月14日 (日) 11:50~

「現代と未来で描くまちづくりー木城町総合計画策定でのフューチャー・デザイン実践ー」

宮崎県木城町 地域政策課 まちづくり推進係 係長  
文田恵子氏



略歴：宮崎県木城町出身。県外の大学へ進学後、2003年に帰郷し木城町役場に入庁。7課9係の各種行政業務を歴任後、2025年度から現職。2022年3月から町制施行50周年プロジェクトの一貫で職員研修からFD実践を開始し、2022年には町制施行50周年にかかわる町民参加によるFDを複数回実施している。同年、広報誌刷新のためのWSとしてFDを活用し、結果を反映させた事業展開を進めた。2024年度には木城町総合計画・総合戦略の策定にFD実践を活用している。

フューチャー・デザインは、持続可能な自然と社会を将来世代に引き継ぐために、新たな仕組みをデザインし、現在の社会の仕組みである市場や民主制を何らかの形で制御しようとする新たな分野です。たとえば、将来世代の視点に立ち、将来世代の利益を代表する役割を与えられた人々(仮想将来世代)は、通常の現代世代の人々とは異なる思考をして、将来世代の利益を擁護することが実験や実践で分かってきました。本シンポジウムでは、フューチャー・デザインをめぐる様々な実践や研究について議論いたします。研究者だけでなく、自治体などの実務家も含め、意見交換を行います。奮ってご参加ください。

主催



キャンングローバル戦略研究所  
The Canon Institute for Global Studies

<https://cigs.canon/>



日本学術会議  
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

<https://www.sci.go.jp/index.html>

参加お申し込みは  
こちらから

<https://forms.gle/JYoqLryiA3v2zXCo7>



# フューチャー・デザイン2025 プログラム

9月13日（土）

- **10:00 開会挨拶**  
小林慶一郎（キャノングローバル戦略研究所、慶応義塾大学）
  - **10:05 「ソーシャルワークにおけるフューチャー・デザインの導入実践：長野県の福祉現場における取り組み」**  
井上信宏（信州大学）  
中島将（長野県社会福祉協議会）  
柴田裕美（諏訪市社会福祉協議会）、和地忍・下倉亮一（長野県長寿社会開発センター）
  - **11:45 「フューチャー・デザイン体験を用いた大学職員向けワークショップの試み」**  
塩川雅美（龍谷大学）、佐藤浩輔（大阪体育大学）、森下覚（東京都市大学）、  
小林諒太郎（大阪経済大学）
  - **12:15 「他者の提示方法が利他選好に与える影響—現世代・40年後・将来世代の比較から—」**  
三木毬菜（関西学院大学）
- ※13:30-17:25 同時通訳あり
- **13:30 "Time preference and intergenerational attitudes on climate change"**  
Botao Qin (Xi'an Jiaotong University)
  - **14:00 "From Past Heritage to Future Legacy: Futuristic Visioning for Miike Coal Mines Through Future Design"**  
Farzaneh Gharaati (Tarbiat Modares University)
  - **14:30 "Designing the Fiscal Future: Intergenerational Justice and Public Debt in Japan and Germany"**  
Yosuke Buchmeier (Munich University)
  - **15:10 "Future Design: How to Stimulate Imagination?"**  
Rick Koster (Leaderscope) & Igor Verettas (Educational Speakers)
  - **15:40 "What can art do for the future?"**  
Michael Munker (milliongenerations foundation)
  - **16:20 基調講演「未来のために今日行動する—ウェールズ発・「未来世代のためのウェルビーイング法」ができるまで」**  
Jane Davidson (Pro Vice-Chancellor Emeritus at the University of Wales Trinity Saint David/Author of #futuregen: Lessons from a Small Country)
  - **17:20 閉会挨拶**  
一原雅子（京都大学）

9月14日（日）

- **9:30 「将来世代の視点から世界自然遺産を考える：富士山ワークショップにおけるFuture Designの試行とその意義」**  
織朱實（上智大学）
- **10:00 「環境保護意欲に対する年齢・経済的要因の影響：ISSPデータを用いた二次分析」**  
高橋茉優（東京大学）
- **10:40 「フューチャー・デザインの脳科学的検証」**  
北村峰陽・岡本剛（九州大学）
- **11:10 「財務省におけるフューチャー・デザインの取組」**  
大本エリナ（財務省主計局調査課）、福嶋咲穂（財務省近畿財務局）
- **11:50 基調講演「現代と未来で描くまちづくり—木城町総合計画策定でのフューチャー・デザイン実践—」**  
文田恵子（宮崎県木城町 地域政策課）
- **12:50 閉会挨拶**  
大本エリナ（財務省）

## フューチャー・デザイン2025組織委員会

- **Chair:** 小林慶一郎（キャノングローバル戦略研究所・慶応義塾大学）
- **Vice-chair:** 中川善典（上智大学）
- **Members:** 一原雅子（京都大学）、岡本剛（九州大学）、小林淳（キャノングローバル戦略研究所）、高橋雅明（矢巾町学校教育課）、西村直子（立命館大学・大阪大学社会経済研究所）、廣光俊昭（財務総合政策研究所）、藤島和典（一般社団法人フューチャー・デザイン）、西條辰義（京都先端科学大学・総合地球環境学研究所）

# 多層多軸連関で捉えて対策する 心血管・腎・代謝症候群

代謝異常を基盤とする生活習慣病、慢性腎臓病、そして心血管病は、疾患としての連続性を有し、その根底に共通する病態、さらには治療・管理における多臓器連関の重要性を反映し、心血管・腎・代謝症候群（Cardiovascular-Kidney-Metabolic Syndrome）という包括的な概念のもとで捉えられるようになりつつある。この概念は近年、急速に広まり、医学のみならず広範な領域において注目を集めている。心血管・腎・代謝症候群（Cardiovascular-Kidney-Metabolic Syndrome）を論じるにあたっては、単に個々の疾患を検討するに留まらず、多臓器が相互に関連し合う複雑な機序、若年期から老年期に至る長いライフステージにわたる管理、そして医療・福祉・公衆衛生の分野を超えて関わる多様な専門職種役割を踏まえ、多層的かつ多軸的な視点から議論を展開することが不可欠である。本フォーラムにおいては、心血管・腎・代謝症候群（Cardiovascular-Kidney-Metabolic Syndrome）の現状と未来を見据え、医学の専門家のみならず、産業界、行政、さらには社会学の分野において第一線で活躍する識者を招聘し、学際的かつ実践的な議論を深めていく。

## 令和7年9月13日(土) 13:00~17:00

### オンライン開催

事前申し込みは下記URLまたはQRコードから  
<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0323.html> →



申込締切：9月9日(火) 事前参加登録をお願いいたします

#### プログラム

- コーディネーター 野出 孝一（日本学術会議第二部会員／佐賀大学医学部長・内科主任教授）
- 座長・司会 神吉 佐智子（日本学術会議連携会員／大阪医科薬科大学医学部外科学講座胸部外科講師）  
金子 英弘（日本学術会議連携会員（特任）、東京大学医学部先進循環器病学講座特任准教授）

開会挨拶	13:00 ~ 13:05	野出 孝一（日本学術会議第二部会員、佐賀大学医学部長・内科主任教授）
講演	13:05 ~ 13:50	本邦の健康・研究施策として心血管・腎・代謝症候群を考える 永井 良三（自治医科大学学長）
	13:50 ~ 14:20	医療産業領域から捉える心血管・腎・代謝症候群 福神 雄介（アルフレッサ株式会社代表取締役社長）
	14:20 ~ 14:50	本邦における心血管・腎・代謝症候群の展望 金子 英弘（日本学術会議連携会員（特任）、東京大学医学部先進循環器病学講座特任講師）
	14:50 ~ 15:20	本邦の循環器病診療の現状と心血管・腎・代謝症候群 水野 篤（日本学術会議連携会員（特任）、聖路加国際病院医療の質管理室室長）
	15:20 ~ 15:50	本邦の糖尿病代謝疾患診療の現状と心血管・腎・代謝症候群 稲垣 暢也（日本学術会議連携会員、公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院理事長／京都大学名誉教授）
	15:50 ~ 16:20	本邦の腎臓病診療の現状と心血管・腎・代謝症候群 柏原 直樹（日本学術会議連携会員、川崎医科大学特任教授）
総合討論	16:25 ~ 16:55	パネリスト 登壇者全員
閉会挨拶 閉会	16:55 ~ 17:00 17:00	山本 晴子（日本学術会議第二部会員、国立研究開発法人国立循環器病研究センター理事）

# 社会の持続可能性と 水問題



2025

9.13<sup>±</sup> 13:00 ~ 17:00

京都大学芝蘭会館稲盛ホール  
(京都市左京区)

私たちの暮らす地球は、その表面積の71%が水でできており、まさに「水の惑星」ともいわれてきました。また、水は生命の源でもあることはよく知られた事実です。なかでも山地や森林に恵まれた日本は、世界でも稀な「美味しい飲料水」に満ちた社会であり、歴史的にも私たちの生活は、農耕や水運などを含め水に支えられてきたと言ってもいいでしょう。

ところが、現在、水を巡ってさまざまな危機的状況が生まれつつあります。人口爆発は、私たちの生命を支える水の問題を顕在化させようとしています。また、水道の民営化問題は経済の発達した諸国を中心に様々な議論を呼び起こしつつあります。さらに、日本社会を振り返ってみれば、年初に埼玉県八潮市で発生した道路陥没の事件は、老朽化した上下水道の補修は待たなしの課題であることを私たちに警告しています。

水という身近でありながら見落とされがちな問題を、歴史的にまたグローバルな視点も踏まえて、改めて考えてみたいと思います。

日本学術会議近畿地区会議学術講演会

事前参加申込制  
どなたでもご参加いただけます。

参加費無料

ハイブリッド開催

## 【開会挨拶】

主催者代表 三枝 信子

(日本学術会議副会長・第三部会員、国立研究開発法人国立環境研究所理事)

主催者代表 時任 宣博

(京都大学副学長、京都大学学際融合教育研究推進センター長)

## 【講演】

基調講演

「水の未来と水みんフラ」

沖 大幹 (日本学術会議第三部部長、東京大学大学院工学系研究科教授)

講演1 「水が育んだ『千年の都・京都』」

鈴木 康久 (京都産業大学現代社会学部現代社会学科教授)

講演2 「日本の水辺と『さとみ(里湖・里海)』」

佐野 静代 (同志社大学文学部文化史学科教授)

講演3 「水道インフラの維持管理問題と

フューチャー・デザイン

～自治体での実践事例を基に～」

原 圭史郎 (大阪大学大学院工学研究科教授)

講演4 「アジア・アフリカの水・衛生と

サニテーションの意義」

原田 英典 (京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科准教授)

## 【パネルディスカッション】

講演者らによるパネルディスカッション

コーディネーター:

伊藤 公雄 (日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授/大阪大学名誉教授)

## 【全体総括】

村山 美穂 (日本学術会議第二部会員、京都大学野生動物研究センター教授)

## 【総合司会】

矢野 桂司 (日本学術会議第一部会員、立命館大学文学部教授)

## 参加申込方法

参加を希望される方は、9月9日(火)までに下記URLまたはQRコードより事前申込をお願いいたします。

(対面・オンライン参加共通)

<https://forms.gle/ENka7R1nMsbSJKu17>



## お問合せ先

日本学術会議近畿地区会議事務局

(京都大学総合研究推進本部内)

[Tel] 075-753-5586 [Fax] 075-753-2042

[E-mail] scj-kinki@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

主催：日本学術会議近畿地区会議  
京都大学

リサイクル適性<sup>®</sup>  
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。

# 「持続可能な畜産を目指して ～温暖化を防止する技術の最前線～」

令和7年

## 9/14 (日) 13:10～16:20

場 所：東海国立大学機構 岐阜大学 講堂  
(岐阜県岐阜市柳戸1-1)

ハイブリッド開催  
参加費無料



参加申込みはこちら

お申込み締切：9/8 (月)

日本畜産学会第 133 回大会のHPからもお申込み可能です  
[https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/jsas133/content/public\\_symposium](https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/jsas133/content/public_symposium)

13:10-13:15 開会の挨拶

菊地 和弘 (公益社団法人日本畜産学会 理事長、北里大学 獣医学部 教授、日本畜産学アカデミー会員)

13:15-13:25 本シンポジウム企画趣旨の説明

座長：山下 恭広 (日本学術会議連携会員、農研機構 畜産研究部門 上級研究員、日本畜産学アカデミー会員)

13:25-13:50

「畜産は環境に悪いのか？」

川島 知之 (宮崎大学 名誉教授、日本畜産学アカデミー会員)

13:50-14:15

「エサで牛のげっぷを減らすには」

小池 聡 (北海道大学 大学院農学研究院 教授)

14:15-14:40

「げっぷの少ない牛の生産を目指して」

上本 吉伸 (東北大学 大学院農学研究科・農学部 教授)

14:40-15:05

「家畜のふん尿からも温室効果ガスは出るの？」

野中 最子 (農研機構 畜産研究部門 畜産連携調整役)

15:05-15:20 休憩

15:20-15:45

「デジタルネイティブ世代が導く食の尊さとそれを支える環境を大切にする畜産の実現を目指して」

後藤 貴文 (日本学術会議連携会員、北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 教授、日本畜産学アカデミー会員)

15:45-16:15 総合討論

座長：山下 恭広 (日本学術会議連携会員、農研機構 畜産研究部門 上級研究員)

鈴木 知之 (農研機構 畜産研究部門 乳牛精密栄養管理グループ長)

パネリスト：山本 朱美 (日本畜産学会第133回大会大会長、岐阜大学 応用生物科学部 教授)

川島 知之 (宮崎大学 名誉教授)

小池 聡 (北海道大学 大学院農学研究院 教授)

上本 吉伸 (東北大学 大学院農学研究科・農学部 教授)

野中 最子 (農研機構 畜産研究部門 畜産連携調整役)

後藤 貴文 (日本学術会議連携会員、北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 教授)

16:15 閉会の挨拶

木村 直子 (日本学術会議第二部会員、山形大学 大学院農学研究科 教授、日本畜産学アカデミー幹事)

主催：公益社団法人日本畜産学会、日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会

共催：日本畜産学アカデミー、国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学、

農林水産省委託プロジェクト研究「畜産からのGHG排出削減のための技術開発」

協賛：公益財団法人伊藤記念財団

お問い合わせ先：scj.animalscience@gmail.com

## 公開シンポジウム

### 「Speaking Plant Approach 2.0 ～農業生産現場実装と学術の次なる挑戦～」 の開催について

1. 日 時：令和7（2025）年9月16日（火）13:00 ～ 15:45
2. 開催地：愛媛大学農学部大講義室（愛媛県松山市樽味3-5-7）（ハイブリッド開催）
3. 開催趣旨：

Speaking Plant Approach（SPA）は、植物の生体情報を多様なセンサーを用いて計測して生育状態を診断し、その診断結果に基づいて栽培環境を最適に制御するという環境制御戦略であり、植物工場をはじめとする環境制御型農業生産の中核的なパラダイムとなっている。近年、センシングデバイスの高性能化・小型化・低廉化が進み、IoT基盤が社会インフラとして整備される中、政府のスマート農業推進施策とも相まって、農業生産現場へのセンシング技術の導入が急速に進展した。この中で、これまで目視に頼ってき生育状態把握のデジタル化も実装段階にあり、特に最近では、光合成速度などのこれまで農業現場では計測が困難とされてきた根本的な植物生体情報についても、リアルタイムかつOn-siteでの計測が実現しつつある。本シンポジウムでは、こうしたSPAの社会実装が本格化し始めた現状を俯瞰するとともに、今後学術が拓くべき次のSPA研究のあり方について議論する。
4. 対 象：どなたでも参加可能（無料、会場定員約300名）
5. プログラム：
  - 開会の挨拶
  - 第一部 SPAの創生と社会実装：農学パラダイムから農業パラダイムへ
    - ・ Speaking Plant Approachの創生と学術研究における展開
    - ・ 利益最大化CO<sub>2</sub>施用を実現するSPAセミクローズド温室
    - ・ 植物環境応答モデルの広域実装～IoPとしてのSPA地域展開～
  - 第二部 SPAの未来：新たな学術領域を牽引
    - ・ 宇宙農業を支える基盤的技術としてのSPA
    - ・ デジタルツインにおけるSPA
  - 第三部 パネルディスカッション「環境制御型農業生産に貢献するSPA学術研究の展望」
  - 閉会の挨拶
6. 主 催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同農業情報システム学分会、農学委員会・食料科学委員会合同農業生産環境工学分科会、日本生物環境工学会
7. 共 催：愛媛大学
8. 後 援：高知大学IoP共創センター、豊橋技術科学大学先端農業・バイオリサーチセンター、一般社団法人日本施設園芸協会、日本農業気象学会、一般社団法人農業情報学会、生態工学会、一般社団法人農業食料工学会（予定）

## 開催趣旨

今日、少子高齢化、産業構造の変化、技術革新、環境問題への対応など、地域が直面する課題は多様化・複雑化しています。こうした課題に対して、大学は地域に根ざした知の拠点として、学術の知見を地域社会に還元する重要な役割を担っています。一方で、大学は近年、研究成果の社会実装を通じて産業創出にも貢献する存在として注目されており、大学発スタートアップはその代表的な手段の一つです。地域の特色やニーズを起点としながら、学術研究から生まれる技術や知見が、スタートアップを通じて社会に展開されることで、地域経済や暮らしに新たな価値をもたらすことが期待されます。本シンポジウムでは、大学がいかにして地域と連携し、課題解決に取り組むかに加え、その延長線にある大学発スタートアップの可能性についても議論します。地域課題に向き合う中で芽吹くスタートアップのあり方、そして研究者自身のキャリアと地域の未来を重ね合わせる視点から、大学の新たな社会的役割を探ります。また、日本学術会議若手アカデミーでは、スタートアップと学術の両輪での発展に向け、研究者へのヒアリングや国内外の動向分析を通じて「見解」の取りまとめを進めており、その一端も紹介します。

# 地域の特色を生かした 大学の取組

公開シンポジウム

×

# 学術とスタートアップの 両輪での推進に向けて

2025 TUE  
**9/16**  
14:00-17:30

現地参加 および オンライン (ハイブリッド開催)

朱鷺メッセ  
新潟コンベンションセンター 中会議室  
新潟県新潟市中央区万代島6番1号

## 参加方法

一般参加可能 参加費無料 事前お申込み・ご登録は不要

主催：日本学術会議 若手アカデミー

現地参加の場合は、直接会場にお越しください(参加費無料)  
オンライン参加の場合は、zoomウェビナー方式となります。  
以下のURL又はミーティングにアクセスしてください。  
<https://zoom.us/j/99475721246>  
ミーティング ID: 994 7572 1246  
オンライン参加の場合の通信料は参加者のご負担となります。

問い合わせ先  
toiawase@gmail.com  
192-0397 東京都八王子市南大沢1-1  
東京都立大学法学部 木村草太研究室

# タイムテーブル

	<b>木村 草太</b> <span style="float: right;">総合司会</span>
	日本学術会議連携会員 若手アカデミー地域社会とアカデミアの 連携に関する分科会委員長 東京都立大学政治学研究所・法学部教授

## 14:00 開会挨拶

	<b>前川 知樹</b>
	日本学術会議連携会員 若手アカデミー会員 新潟大学歯学総合研究科 高度口腔機能教育研究センター研究教授

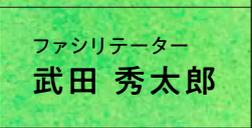
## 14:10 シンポジウムの開催趣旨 日本学術会議若手アカデミーの活動紹介

	<b>小野 悠</b>
	日本学術会議連携会員 若手アカデミー代表 豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授

## 14:15 - 15:15

<b>第一部</b>	<b>地域の特色を生かした大学の取組</b>		<b>岡本 圭一郎</b>
	ファシリテーター <b>木村 草太</b>		新潟大学大学院歯学総合研究科 (歯学部) 口腔生理学分野准教授 新潟大学日本酒学センター・協力教員
	<b>安田 浩保</b>		<b>棒田 恵</b>
	新潟大学災害・復興科学研究所准教授 研究統括機構研究教授		新潟大学工学部工学科建築学プログラム准教授
	<b>門田 有希</b>		<b>田井 明</b>
	日本学術会議連携会員 若手アカデミー会員 岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域教授		日本学術会議連携会員 若手アカデミー会員 福岡工業大学社会環境学部社会環境学科准教授

## 15:20 - 16:20

<b>第二部</b>	<b>学術とスタートアップの両輪での推進に向けて 若手 × 多様性 × 地方の新たなイノベーション</b>		ファシリテーター <b>武田 秀太郎</b>
	<b>藤本 あゆみ</b>		<b>田中 和哉</b>
	一般社団法人スタートアップエコシステム協会 代表理事		Co-founder & Board Director, CSO at scheme verage, Inc 政策研究大学院大学政策研究院リサーチ・フェロー 慶應義塾大学SFC研究所上席所員
	<b>南澤 孝太</b>		<b>武田 秀太郎</b>
	日本学術会議連携会員 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授 若手アカデミー幹事		日本学術会議連携会員 若手アカデミー 未来を拓く学術イノベーション分科会委員長 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科准教授

## 16:30 ディスカッション

## 17:30 閉会

## 公開シンポジウム

# 「地球的課題解決のための資質・能力を育成する 地理教育—小学校・中学校・高等学校までの一貫 カリキュラムに向けて—」

【主催】 日本学術会議地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育・ESD 分科会、  
公益社団法人日本地理学会地理教育専門委員会

【後援】 地理学連携機構

【日時】 令和7(2025)年9月21日(日)9:00~12:00(第1会場)

【場所】 弘前大学(青森県弘前市文京町一番地)

【一般参加】 可(どなたでも参加いただけます) 参加費:無料

オーガナイザー:井田仁康(日本学術会議連携会員、筑波大学名誉教授、公益社団法人日本地理学会会長、地理教育)・村山朝子(日本学術会議連携会員、茨城大学名誉教授、社会科教育)・由井義通(日本学術会議連携会員、広島大学教授、地理学)・久保純子(日本学術会議連携会員、早稲田大学教授、自然地理学)・山野博哉(日本学術会議連携会員、東京大学教授、地理・環境学)

総合司会:森本泉(日本学術会議連携会員、明治学院大学国際学部教授、人文地理学)・由井義通

### 【プログラム】

- 9:00~9:10 **開会挨拶・趣旨説明**  
井田仁康(日本学術会議連携会員、筑波大学名誉教授、公益社団法人日本地理学会会長)
- 9:10~9:25 **報告1**:小学校社会科におけるフィールドワークと地図学習の課題  
吉田和義(創価大学・非常勤、地理教育学)
- 9:25~9:40 **報告2**:小・中社会科における「地誌」学習の課題と展望  
村山朝子(日本学術会議連携会員、茨城大学名誉教授、社会科教育学)
- 9:40~9:55 **報告3**:「地理総合」の現状と課題—担当経験者を対象とした実態調査の結果報告—  
浅川俊夫(元東北福祉大教授、自然地理学)
- 9:55~10:10 **報告4**:地球的課題解決を見据えた地理授業をつくる教師の育成  
伊藤直之(鳴門教育大学教授、社会科教育学)
- 10:10~10:25 **報告5**:地理教育の社会への実装—目的としての「地理」—  
中澤高志(日本学術会議第一部会員、明治大学教授、人文地理学)
- 10:25~10:40 休憩

### コメント(指定討論者)・総合討論

- 10:40~10:55 **コメント1**:学習指導要領作成の立場から  
小関祐之(文部科学省教科調査官・国立教育政策研究所研究員)
- 10:55~11:10 **コメント2**:地理教育の立場から  
吉田剛(宮城教育大学教授、地理教育学)
- 11:10~12:00 **総合討論**

※発表要旨は右のQRコードからダウンロードしてください

【問い合わせ先】(電子メールにてお問い合わせください) 広島大学 由井義通 [yyui@hiroshima-u.ac.jp](mailto:yyui@hiroshima-u.ac.jp)



公開シンポジウム  
「戦後 80 年の国境横断ガバナンスの形成と変容—開放と閉鎖の相克—」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会紛争下の人道的危機に関する国際政治分科会
2. 共 催：日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 A「分断する国際政治における国際協調とガバナンスの政治経済分析」（代表：鈴木基史、令和 5～8 年度）、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 A「国際社会における保護・禁止等の範囲をめぐる学際的研究」（代表：石田淳、令和 3～7 年度）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 7 年 9 月 27 日（土）13:00 ～ 16:00（11 月 15 日（土）に変更の可能性あり）
5. 場 所：青山学院大学青山キャンパス講義室（東京都渋谷区渋谷 4-4-25）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：無
8. 開催趣旨：

第二次世界大戦の終結後、モノ、カネ、ヒト、情報の国境を越える移動を促しつつ、管理する国境横断ガバナンス（transboundary governance）が構築され、進化してきた。この地球規模のガバナンス体制は、植民地主義や重商主義に翻弄された戦前の体制に対する反省に則り、適正な国境移動を樹立することを通じて、国際の友好、平和、開発を目指すものである。しかし、戦後まもなく東西・南北対立が発生し、これに伴う政治的駆け引きによって、ガバナンスの恩恵が均質に発生することは妨げられてきた。こうした不均衡を是正する取り組みは主権という名の下で否定され、モノ、カネ、情報はある特定地域に集中する一方、ヒトは貧困地域から富裕地域に流れようとし、環境破壊、感染症、武器、犯罪は地域を問わず無秩序に拡散している。さらに近年、制度の閉鎖化を図ろうとする国々が増加し、国際社会の分断を修復する道は遮られ、ガバナンスの本来の意義の達成は遠のいている。以上の背景に鑑み、本シンポジウムは国境横断ガバナンスの功罪を検証することによって、戦後 80 年の国際関係の軌跡と展望を幅広く議論する。

9. 次 第 :

開会 13:00

開会の辞 13:00-13:10

石田 淳 (日本学術会議連携会員 / 東京大学大学院総合文化研究科教授)

第1部 講演 (演題はいずれも仮題)

古城 佳子 (日本学術会議連携会員 / 東京大学名誉教授)

国際政治経済の観点から

中山 裕美 (青山学院大学国際政治経済学部准教授)

難民ガバナンスの観点から

栗栖 薫子 (日本学術会議連携会員 / 神戸大学大学院法学研究科教授)

人間の安全保障の観点から

下谷内 奈緒 (津田塾大学学芸学部国際関係学科准教授)

国際刑事裁判の観点から

宇山 智彦 (日本学術会議第一部会員 / 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授)

地域研究の観点から

第2部 ラウンドテーブルと質疑応答

全登壇者

閉会の辞 15:50-16:00

鈴木 基史 (日本学術会議第一部会員 / 京都大学大学院法学研究科名誉教授)

10. 関係部の承認の有無 : 第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無 : 無

(下線部の講演者等は、主催分科会委員)

日本学術会議 公開シンポジウム

# 人口減少・人口偏在社会に求められる ヘルスケア人材：第2回

2025年9月28日(日) 13:00~15:30



オンライン開催 (YouTube配信)

参加費無料：要登録、登録はこちら ↓ ↓ ⇒ ⇒

[https://supportoffice-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_B9rci9BmQi24cvxBPOFUEA](https://supportoffice-jp.zoom.us/webinar/register/WN_B9rci9BmQi24cvxBPOFUEA)

問い合わせ先：東京都立大学 西村研究室 yumin(a)tmu.ac.jp (a)→@へ

## 総合司会

西村 ユミ (日本学術会議第二部会員)  
森山 美知子 (日本学術会議第二部会員)

## 開催挨拶

磯 博康 (日本学術会議副会長)  
中田 勝己 (厚生労働省医政局医事課長)  
日比 謙一郎 (文部科学省高等教育局医学教育課長)

## 第1セッション

恒石 美登里 (公益社団法人日本歯科医師会/  
日本歯科総合研究機構 主任研究員)  
歯科医師：  
すでに始まっている歯科における偏在問題について

崔 吉道 (金沢大学附属病院教授・薬剤部長)  
人口減少社会の地域完結型医療を支える  
薬剤師の確保と育成

## 第2セッション

山端 聡 (奈良県吉野郡天川村議員)  
人口過疎・ヘルスケア資源が限定的な地域における  
看護職の自立した働き方

堀田 聡子  
(慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授)  
変化を求められる対人支援専門職の基礎教育：  
諸外国の動向と我が国における模索

## 主催

日本学術会議

健康・生活科学委員会ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会、歯学委員会、薬学委員会

## 共催

一般社団法人 日本看護系学会協議会

## 後援

公益社団法人日本看護科学学会、公益社団法人日本歯科医師会、公益社団法人日本看護協会、一般社団法人日本病院薬剤師会、一般社団法人日本地域理学療法学会、一般社団法人日本理学療法学会連合、一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会、日本NP学会、国際看護師協会 (ICN)、一般社団法人日本医療情報学会、一般社団法人日本医療・病院管理学会、日本運動疫学会、一般社団法人日本エイズ学会、一般社団法人日本衛生学会、日本衛生動物学会、特定非営利活動法人日本栄養改善学会、一般社団法人日本疫学会、一般社団法人日本学校保健学会、日本健康学会、一般社団法人日本健康教育学会、日本健康支援学会、一般社団法人日本健康相談活動学会、一般社団法人日本口腔衛生学会、一般社団法人日本公衆衛生学会、一般社団法人日本公衆衛生看護学会、一般社団法人日本行動医学会、一般社団法人日本国際保健医療学会、日本子ども健康科学会 (子どもの心・体と環境を考える会)、一般社団法人日本災害医学会、公益社団法人日本産業衛生学会、一般社団法人日本思春期学会、一般社団法人日本循環器病予防学会、公益社団法人日本小児科学会、一般社団法人日本職業・災害医学会、一般社団法人日本女性医学学会、一般社団法人日本性感感染症学会、一般社団法人日本地域看護学会、公益社団法人日本母性衛生学会、日本ワクチン学会